

令和8年度

別紙4

庄和地区地域づくり推進協議会



市民センターを拠点とした
地域づくりについて

令和8年 8月18日(火)



委員名簿

委員（13名）

※敬称略・順不同

会長 細谷 悟（自治会関係）
嶋村 清（自治会関係）
新井 勝（自治会関係）
松原 睦（学校関係）
横山 稜（公 募）
磯村 幸一郎（公 募）
早坂 総（公 募）

副会長 森田 伝（自治会関係）
木村 亞人（自治会関係）

加賀谷 徳之（学校関係）
後藤 香澄（公 募）
小川 直美（公 募）
坂本 宏子（公 募）



市民センターのあるべき姿

庄和市民センターのあるべき姿に関する議論の進め方について、

- 「夢を描こう」と原点に戻ること。
- 議論の展開がぶれないように「枝と幹」という観点の幹を作り、基本軸とすること。

を前提条件として、市民センターの機能について論議を実施。



現_現状と抱える課題

地域内や自治会内でのコミュニケーション不足を感じる。
広報、周知のあり方に問題がある。

庄和地域は面積が広く、北部、中部、南部に分かれている。

防災訓練の強化充実が必要である。



課題解決の方向性

課題

地域内や自治会内でのコミュニケーション不足を感じる。
広報、周知のあり方に問題がある。

解決の方向性

各団体、各地区、交流するための拠点となる連絡ツールは持ち合わせていないが、地区センターとして、一定のコミュニティがあり、連絡ツールは持ち合わせている。

連絡ツールとして、地区センターをうまく活用し、パイプ役となっ
ていただくことが、地区センター職員及び行政の重要な立場である
と考えている。



課題

庄和地域は面積が広く、北部、中部、南部に分かれている。

解決の方向性

庄和地区は、面積が広すぎて、交流する場の障壁となっている。

市民センター正風館だけではなく、

北部であれば、「ハルカイト」

南部であれば、「庄和南公民館」があるので、

各々を交流の場として活用し、情報交換をしながら特徴として活かした地域づくり、拠点づくりをする必要がある。



課題

防災訓練の強化充実が必要である。

解決の方向性

防災訓練の実現に至っていないが、自ら声をかけながらやっていく
必要があり、またその体制整備も必要である。

行政、地区センターと協力し合いながら有事の際に事を進めていける
ような防災組織的な体制の立ち上げが必要である。



中間報告

「全世代型の交流の場を通じての住民同士の結束（コミュニティの醸成）の強い地域になることを前提とした上で、

①現在活動しているイベントにコラボレーションすることで、若い世代が集う地域を作る。

②地域一体となった防災体制の構築を目指す。

①、②が醸成されれば、「市民センターを拠点とした地域住民主体の地域づくり」に繋がる、とまとめました。



中間報告の活動展開

①現在活動しているイベントにコラボレーションすることで、若い世代が集う地域を作る。

既存イベントへのコラボ・アプローチの模索

- ・令和8年度庄和地区体育祭（令和8年10月11日実施）

現状、課題など

- ・自治会員の高年齢化による参加者数の減少
（自治会加入率：72.69% 参加団体数：13団体）

人を呼び込む取り組み・アプローチ(即効性あるもの・長中期的問わず)



- 令和8年度 庄和地区公民館まつり（11月7日・8日実施）

現状、課題など

- 毎年2,000人前後の方が来館（さまざまな年代の方、サークル等）

人を呼び込む取り組み・アプローチ（即効性あるもの・長中期的問わず）



②地域一体となった防災体制の構築を目指す。

やるべきこと・できること

自主防災組織の立ち上げ

- 骨子や規約の作成→執行段階までの進行について
- 住民、地域、学校、行政とのネットワークの構築
- 全ての地域住民を対象とするシステム、訓練の実施など
- 各種データの取得について
- 防災士の活用について 等の課題をいかに解決するか。

どのように進め展開していくか？



協議会を推し進める指針

1 話し合い、意見交換、情報の共有化

2 協力し持ち寄って調整していく協調

3 情報の共有化、協調から生まれる信頼関係